# 令和2年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 14	公益目的事業 19
主査名	松澤俊雄 大阪市立大学名誉教授 高橋愛典 近畿	<b></b> 大学教授
研究テーマ	地域・都市の総合交通政策の研究:省エネ下での地域の活性化・モビリティ	
	の向上	

### 研究の目的:

地域・地域間交通の整備・運営を一体的に行うという総合交通政策の考え方を踏まえ、①自動車利用の適正化、②物資輸送(業務交通)の合理化、③旅客交通における私的(個別)交通機関と公共交通機関の適切な分担といったテーマを設定して研究を進めてきた。

## 研究の経過(4月~3月):

新型コロナウイルス感染拡大等のため、年度前半は研究会を実施せず、主要メンバー(松澤・髙橋・水谷)の間で、メール稟議による反省、下期研究活動に向けての議論を行い、オンライン研究会の可能性等を検討した。

令和 2 年 11 月には、京都府舞鶴市でバス交通や MaaS (Mobility as a Service)に関連する現地調査を実施した。対面の研究会を、令和 2 年 12 月 19 日と令和 3 年 3 月 12 日の 2 回開催し、以下の報告が行われた。

- ・野村 実・髙橋愛典「地方版 MaaS の実現に向けた課題と展望」
- ・水谷 淳・酒井裕規「新幹線競合路線における航空旅客の選好に関する研究」
- ・髙橋愛典「交通政策(課題)先進地域としての丹後・但馬|
- ・安達晃史「本邦 LCC の参入は空港の効率性を高めたのか?」

文献研究会(交通経済理論研究会と共催)を対面・オンライン併用で3回実施し、3本の海外論文 を講読した。

## 研究の成果(自己評価含む):

コロナ禍にもかかわらず現地調査を実施し、その成果を速やかに報告できたことは意義深かったと考える。研究会の開催も危ぶまれたが、緊急事態宣言の合間を縫い、他の研究プロジェクトとの共催を含めると3回の研究会を開催し、活発な議論を交わすことができた。文献研究会も3回開催し、対面とオンラインを併用するノウハウを獲得した。

#### 今後の課題:

現地調査については、費用の令和3年度への繰り越しをお認めいただいたので、再度実施し、成果をまとめたい。

航空関連の研究報告や文献講読が多くなった。特に熱心に報告する研究メンバーの関心が、航空に向いているゆえである。航空をはじめとする地域・都市間交通の研究を、道路交通や地域・都市内交通の研究と結び付け、総合交通政策として体系化していくことは、当プロジェクトの特徴として重要であり、今後も進めていきたい。地域交通の研究は当プロジェクトのもう1本の柱である。今年度は近畿地方北部に関する調査報告が中心であったが、他の研究プロジェクトとの連携を深める中で、近畿地方内外の諸地域との比較研究を行いたい。都市交通については、今年度、研究を進めることがままならなかった。首都圏以外の都市圏を主な研究対象として、研究メンバーの多くが在住・在勤する近畿地方から、体系的な研究成果を発信することを課題としている。